

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 9 回 松阪市政推進会議
2. 開 催 日 時	平成 29 年 10 月 31 日（火）午後 1 時 30 分～午後 3 時 45 分
3. 開 催 場 所	松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
4. 出 席 者 氏 名	出席委員：村林守委員、酒井由美委員、高島信彦委員、中川昇委員、西岡裕子委員、平岡直人委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員 欠席委員：梅村光久委員、佐藤祐司委員、松浦信男委員、三井嬉子委員、村田吉優委員、吉田悦之委員 事 務 局：竹上市長、山路副市長、永作副市長、加藤企画振興部長、刀根経営企画課長、川上政策経営係長
5. 公開及び非公開	公開
6. 傍 聴 者 数	1 人（内、報道関係 1 社）
7. 担 当	松阪市企画振興部 経営企画課 TEL 0598－53－4319 FAX 0598－22－1377 e-mail kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・ 事項、議事録は別紙のとおり

第9回 松阪市政推進会議 議事録

1. 日 時 平成 29 年 10 月 31 日（火） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 45 分
2. 場 所 松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
3. 出席者 村林守委員、酒井由美委員、高島信彦委員、中川昇委員、西岡裕子委員、
平岡直人委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員
- ※欠席者 梅村光久委員、佐藤祐司委員、松浦信男委員、三井嬉子委員、
村田吉優委員、吉田悦之委員

〔事務局〕竹上市長、山路副市長、永作副市長、加藤企画振興部長、刀根企画振興部経営企画課長、川上企画振興部経営企画課政策経営係長

1 市長あいさつ

竹上市長あいさつ

あらためまして、こんにちは。久しぶりの開催となりました。本日もよろしくお願いいたします。

常々、新しいことに挑戦していかなければならないと思っています。

例えば、子育て世代が何を思い、何を求めているのか。行政が把握する術が有るようで無い。リサーチがいかに大切かということを実感しています。

本日は、2 年間の振り返り、30 年度に向けてどのような考え方を持つべきか、ご示唆をいただければと思います。

日々、社会情勢が変化していますが、例えば、保育園の無償化はおそらく 2 年後には実現するのではないかと思います。それに向けてどのような準備が必要なのかなど、様々なことが変化する中で、来年度に向けての方向性や視点などについてご意見をいただきたいと思います。

※松阪市政推進会議規則第 5 条により、会長が会議の進行を行う。

○ 会議の公開・非公開の決定

会長)

本日が第 9 回目の会議となります。本日もよろしくお願いいたします。

早速ですが、本日の会議の公開・非公開を決定する必要がございますが、本日の議題は、「事業構築に向けた新たな視点について」であります。竹上市政が誕生し 2 年が経過しましたが、これまでの事業を振り返りながら、今後の市政運営にどのような視点が必要なのか、委員の皆様からのご意見を頂戴したいと思います。

これまでも、総合計画など議論も公開で開催してきましたので、本日の会議についても、委員の皆様から個人情報等のご発言はお控えいただくことをお願いしまして、公開させていただきますがいかがでしょうか。

(異議なし)

会長)

では、本日も公開で開催します。

2 協議事項

1) 事業構築に向けた新たな視点について

会長)

では、事項書に沿って進めてまいります。

事項書2の協議事項 1) 事業構築に向けた新たな視点について、あいさつでも少し触れていただきましたが、市長より説明をお願いいたします。

市長)

資料に基づき説明。

次年度以降の事業の方向性、視点についてご意見をいただきたい。

会長)

市長より資料の説明をいただきました。

竹上市長が就任して2年が経過しました。就任以来、様々なことに取り組んでこられましたが、次年度以降、新しく事業を構築するにあたり、どのような視点が必要なのか、この件についてご発言いただければと思います。

委員)

市政運営については、子どもたちや地域の意見を聞ける体制を作っただけだと思います。

委員)

公約に関係している項目、重要視しているものは何か。

市長)

「子育て一番宣言」が公約であり、松阪版ネウボラの推進も含め、松阪を子育てがしやすいまち、子どもや保護者の皆さんが生活しやすいまちにしたい。そのためにやるべきことがいくつかあり、例えば、待機児童を解消するために保育園の拡充や定員増を図ってきたい。すでに2年間で220人の定員増となった。また、三世代同居・近居への取組や保育士の確保、特に、ニーズ調査では一時預かりの希望が多かったので、協議を進めているところである。併せて、病児・病後児保育も併設していきたいと考えている。これらすべては、暮らしやすいまちの実現に向けた取組であると考えている。

委員)

ここまでの2年間で進めにくかったのはどんなことか。

市長)

一番難しいのは人の問題である。市役所には約1,400人の職員がいるが、組織が変わっても働く職員の意識が変わらなければ事業は進んでいかない。それなりにシステムチックにするために、定量指標を設け、PDCAサイクルで回していこうと思っている。新規事業を進めるためには廃止する事業も考えていかなければならない。市民サービスの低下にならないようにしていくことが大きなテーマであり、一番難しいところでもある。

委員)

事業の重要度と費用対効果は比例しない。市民を納得させる必要があるのではないか。市民懇談会への参加者層はどれぐらいか。

市長)

市民懇談会の参加者の平均年齢は70歳ぐらいではないか。若年層は懇談会に参加してくれないので、市民アンケートで若年層の意見を集めている。

委員)

ネウボラを推進していくためには医療関係は付き物である。医師会とのネットワークはきちんと進んでいるのか。

市長)

医師会の協力を得て、夜間応急を週に1日増やしていただいた。また、医療費の窓口無料化を進めようとしている。すべて、医師会の協力なくしてはできない。良好な関係を継続していきたい。

委員)

今、市民病院のあり方を検討されているが、医師会も協力してもらっているのか。

委員)

国から言われているベッド数があるが、松阪市の二次救急は充実している。継続した医療体制の確保について考えていただきたい。

委員)

市民懇談会に年齢制限を設けてはどうか。来る人は決まっているのではないか。若者の考え方を大切にしてほしい。また、回数よりも内容を市民に伝えることが必要だと思う。昔からPRが下手である。

委員)

雇用の問題として、企業の誘致を進めてもらっているが、今後の企業誘致に関して立地に適した場所をどのように考えているのか。また、3病院のセンター化構想について教えてほしい。

市長)

立地に関しては、ゲスタンプ社が今年の春に出来上がったばかりの嬉野天花寺にある7haの民間が開発した土地に進出していただくことになった。これにより誘致する場所がなくなった。今、立地適正化調査を実施しており、今年度中に結論が出る予定である。今の企業はすぐに進出できる土地を探している。早急に誘致場所の確保に着手していきたいと考えている。

3病院については、3月に国において決められた地域医療構想により、10年後にはベッド数を393床減らすように決められた。約400床というのは、総合病院一つ分を減らすことになる。答申が出てから結論を出すことになるが、全てが共倒れにならないように検討を進めているところである。

委員)

民間医療のバックアップに自治体が入るのか。

市長)

民間病院は、赤字が続けば継続できない。自治体病院は、自治体が運営しているので、赤字になってもつぶれない。最終的なしわ寄せは、自治体病院にくることになる。一番大事なことは、松阪の今の医療レベルを落とさないことである。

委員)

「まつさか若者クラブ」に関わっているが、30人の募集枠に50人以上の申し込みをいただいた。うまい場があると人が集まることを再確認させてもらった。無作為抽出にて若者に声をかけていただいたが、すべての回に参加してもらった方が6〜7人いた。呼びかけ方と場の作り方次第で人づくりはできると感じている。市が持っている認証や認定、お墨付きを上手に使い、モチベーションを高める仕掛けを市民とともにできたらと思う。

会長)

市が主催する懇談会のやり方を変える必要があるのではないかと。団体のほうで人を集めてもらったり、市が集めるのではなく集まっている場所に行く方法も良いのではないかと。

委員)

開催時間の問題もあると思う。夜の開催では子育て世代は出にくい。出やすい時間の設定であれば、参加される層も変わってくると思う。雰囲気づくりも必要で、チラシもカジュアルにすれば集まってくれると思う。

市長)

市政に関心を持ってもらっている若者もいる。委員が言われるように、集まっている場に出向くのも良い方法だと思う。なぜ駅前に子育て支援センターが必要なかわからなかったが、話を聞くと理解できた。直接出向いて話を聞く場や、幅を広げながらターゲットを絞って開催していきたいと思う。

委員)

「市民懇談会」というネーミングで人が集まるのか。市民が受け入れにくくないか。女性や若者が入りやすい雰囲気にする必要がある。

委員)

気軽なシーンがないと、新しい層は入りにくいと思う。

委員)

入口をどう見つけるのかという話である。行政もそこは探る必要があると思う。入口から入って膨らんだものの出口を見つけるのが行政である。入口をいっぱい作り、たくさん入ってもらえる雰囲気が必要で、市長には身近な存在になってほしい。

委員)

子育て支援の活動を通してお母さんたちと話をする機会があるが、市長には子育て支援のイメージを持っている。病児・病後児保育の施設が増えることは喜ばしいことで、少しずつではあるが子育てしやすい環境になってきていると感じている。ネウボラを進めているが、実際に子育てしている世代が知らないことが多く、もっとPRが重要で、情報発信することで情報交流が生まれ、その中で新しいアイデアが出てくる。松阪には有名になるポイントがたくさんあるので、その可能性にチャレンジしてほしい。

委員)

保育園の無償化で待機児童はなくなるのか。預けたら無料で、預けられない人はどうなるのか。

市長)

待機児童はなくならないと思う。政府が言っているは、3～5歳の保育料の全面無償化である。そうなれば、預ける人はもっと増えるはず。また、幼稚園はどうなるのかという疑問がある。3歳ぐらいまでは自分の手で育てたい人もいる。自分の生き方の選択になる。損得で考える部分ではないと思う。3歳で無償になるなら働く人は増えるのではないかと思う。今以上に保育の需要が増え、それに対応するために保育園や保育士が必要になってくると想像できる。

会長)

保育園の配置に問題はないのか。通勤途中にある保育所に預けたいという希望が多いと聞く。

市長)

中山間地域では空きがある。地域での差はあり、子どもたちが多い地域はすぐに一杯になる。

委員)

ピロリ菌の検査について、次年度から中学校で実施する方向で進めてもらっているが、市にとって胃がん撲滅運動の元年になる。がん検診の受診率が低いことが問題になっているが、ピロリ菌について知らない人も多いので、大きなキャンペーンをやってほしい。広く市民にPRすることで、がん検診の受診率向上にもつながると思う。

市長)

ピロリ菌検査については、医師会と相談しているところであるが、行政は本当にPRが下手である。どの業務においても、広報費は担当課が持っている。予算がシーリングされていく中で、一番初めに削られていくのは広報費である。そこに疑問があり、広報費を一元化できないか検討しているところである。

委員)

マスタープランはいつ完成か。また、アンダーパスの開通による次の一手は考えていないのか。松坂城跡まで無電柱化できないものか。

市長)

マスタープランは平成 30 年度に完成予定である。無電柱化については、今のところ計画はない。研究させていただく。

委員)

文化に対する事業の考えはあるのか。

市長)

文化事業に関しては、アプローチを変えていくことを検討している。平成 31 年度に旧長谷川邸の全面公開をめざし、点在している文化施設も含め、歴史を語れるガイドの育成が必要であると考えている。たくさんの方に親しんでもらえる機会を作り、身近なものになるように近づけていきたい。

会長)

今後 2 年間でどのような展開が必要になるかであるが、人が人を動かすことはできないと思うべきである。市長の思う方向に向かわせるためには、市長のリーダーシップが必要になる。これまでの 2 年間で様々な業績を上げられているが、市長の思いが強く入ってい

るように感じる。これからは、市長から職員や市民にどうすれば良いかを投げかけてみる必要もあるのではないかな。

委員)

自治会やPTAに関わる機会があるが、40代の者から古株の人には物が言いにくい。決まったことを蒸し返したり、陰で言うなど、会議体ができていない。これからの世代が入りやすい場をどのように作っていくのか、悩ましい状況にあると感じる。本来の議決していくというプロセスが成り立っていない。広聴や合意形成の本来の形を模索していく必要があると思う。

市長)

新規事業の中には、職員のアイデアもある。新しいことを積極的にやっていこうとする職員が増えてきた。職員は市民に怒られることはあっても、褒められることは少ない。感謝している市民もいるが、直接職員を褒めることはない。職員が職員を褒める制度を作っていきたい。

これまで、まちづくりの核を子どもに置いており、元気をキーワードにしている。また、三重県の南の玄関口としての度量が必要であると思っている。

委員)

松阪市の発展には、近隣町との関わりが必要だと思う。今はその連携が見えてこない。市単独での活性化は不可能であり、近隣町を含め一つのブロック体と考えて取り組んでいただきたい。

委員)

人の問題は、自分のために頑張ることは難しいが、この人のために頑張ろうと思える上司に出会うことが重要であると思う。市長と一職員が話す機会は少ないと思うが、コミュニケーションが取れると同じ方向に進んでいけると思う。

会長)

ありがとうございました。

委員の皆さまからのご意見を参考にいただき、実りある市政につなげていただければと思います。

本日の協議事項はすべて終了いたしました。

では、事務局に進行を戻します。

事務局)

ありがとうございました。

最後に、次回は年明け1月23日火曜日に開催させていただきます。

あらためてご連絡させていただきますが、ご予定をお願いいたします。

これにて第9回市政推進会議を終了いたします。

ありがとうございました。

《午後 3 時 45 分 終了》